

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成24年度			◎ 教育学研究科においては入学定員超過率が高く、特別支援教育専攻科においては入学定員充足率が低い。（京都教育）
平成25年度	◎ 平成23年度に専任教員を配置したアドミッションオフィスを設置し、入試全般にわたる分析・検証を行い、入学者選抜の改善を進めている。（室蘭工）		◎ 博士後期課程については入学定員充足率が低い。（室蘭工）
	◎ ウィンター・サイエンスキャンプ等、様々な取組により、全国各地から入学生を受け入れている。（北見工）		◎ 大学院工学研究科（博士後期課程）においては入学定員超過率が高い。（北見工）
	◎ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、「求める学生像」、「入学前に身に付けておいてほしいこと」に加えて「入学者選抜の基本方針」が明確に定められている。（弘前）		
	◎ 工学部では平成24年度入学試験から、推薦入試において被災者特別選抜を実施している。（岩手）		
	◎ 教育文化学部では東京に、工学資源学部では、東京、名古屋にも試験会場を設置し、多方面からの学生の受入を行っている。（秋田）		◎ 大学院課程の多くの研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（秋田）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（山形）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（東京農工）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（信州）
			◎ 入学定員と実入学者数の関係は、大学院課程の一部の研究科において入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（岐阜）
			◎ 学士課程の一部の編入学及び大学院課程の一部の研究科等においては入学定員充足率が低い。（京都）
			◎ 博士後期課程においては、入学定員充足率が低い。（奈良女子）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（和歌山）
			◎ 大学院課程の一部の教育部においては入学定員超過率が高い。（徳島）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（総合研究）
			◎ マテリアルサイエンス研究科（博士前期課程／博士後期課程）については入学定員充足率が低い。（北陸先端）
平成26年度	◎ 入学者選抜方法の調査及び研究並びに入学者の追跡調査及び研究等を行い、その検証の成果を中心として入学センター活動報告書にまとめ、実際の選抜方法に反映させている。（旭川医科） ◎ 入学者選抜において地域枠の募集定員を大幅に増員し、その結果について検証を行い、それに基づく改善を着実にを行っている。（旭川医科） ○ 個人面接・集団面接を利用した入試を行い、学力だけでなく多面的な評価方法での選抜を行っている。（旭川医科）		
	◎ 全国で入試説明会を実施し、48校の高等学校を訪問するなどの結果、ＡＯ入試で優れた学生の獲得に成功しており、科学オリンピック入試や国際学士コース入試等、多様な入試方法を採用している。（東北）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（東北）
			◎ 大学院課程の一つの研究科においては、入学定員超過率が高い。（福島）
	○ 「検証シート」を導入することにより、入学者受入方針に沿った公正な入試の実施、学生の受入方法、入試実施体制及びそれらの検証等を可能とする体制がとられている。（千葉） ◎ 先進科学プログラム（飛び入学）入試において、面接や課題論述試験に試験時間をかけるなど、受験者の適性を的確に把握できるよう選抜方法を工夫し、優れた卒業生を輩出するなどの実績を上げている。（千葉）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。専攻科及び別科においては、定員充足率が低い。（千葉）
			◎ 大学院課程の複数の研究科においては、入学定員充足率が低い。（一橋）
	◎ グローバル化推進の一環として、英語による授業のみを履修して学士の資格を取得できる学部教育特別プログラムＹＣＣＳを設置し、特別入試を実施している。（横浜国立）		

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（新潟）
	○ 学校教育学部では、入学試験委員会の下に入学者選抜方法研究専門部会を設置し、毎年度、入学者選抜に関する詳細な検証を行い、報告書を作成し、具体的な提案を行うことにより、次年度以降の入学者選抜方法の改善に役立てている。（上越教育）		
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（金沢）
			◎ 専攻科において、入学定員充足率が低い。（山梨）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（名古屋）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（神戸）
	○ 医学部では、鳥取県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持つ者を積極的に選抜できる受入方法として、鳥取県の経済的支援の下に、地域枠、特別養成枠及び鳥取県看護職員養成枠を採用している。（鳥取）		◎ 学士課程の一部の編入学においては入学定員充足率が低く、大学院課程の一部の研究科においては入学定員超過率が高い。（鳥取）
	○ 全学組織アドミッションセンターを中心に、学生個々の入試成績と修学状況等の追跡調査・検証により内部質保証を行う全学システムが確立している。各学部は、同センターによる分析結果を踏まえて、入学者選抜の改善に取り組んでいる。（岡山） ◎ 平成26年度に文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」に採択されており、平成27年度入試から、全学部で国際バカロレア入試を導入している。（岡山）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（岡山）
	◎ 学士課程では、「選考方法の趣旨」や「アドミッション・ポリシー・チェックリスト」を作成・公開して、学科試験や小論文を課す理由、面接において確かめたい内容等を説明している。（愛媛）		◎ 大学院課程の一つの研究科においては入学定員超過率が高い。（愛媛）
			◎ 大学院博士課程については入学定員充足率が低い。（高知）
			◎ 大学院課程の一部の学府においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（九州）
	◎ 大学教育イノベーションセンターのアドミッション部門では、入学者選抜の検証と変更の検討を行うための各種分析データを各学部を提供し、選抜方法の改善に活用している。また、個別学力検査で課す教科・科目の入試問題作成に関するF Dや面接、小論文等の主観的な評価を伴う選抜手法の適切な設計と実施に関するF Dを毎年度行うことで入学者選抜の妥当性と信頼性を高めている。（長崎）	◎ 正解が唯一ではない問いに批判的・論理的にアプローチし、資料等を読み解いて論述を展開することを求める「批判的・論理的思考力テスト（総合問題）」の取組は、入学者選抜方法改革の新しい試みとして今後の検証が期待される。（長崎）	
			◎ 大学院課程の一部の研究科において、入学定員超過率が高い。（宮崎）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（鹿児島）
平成27年度	○ 毎年、全学生を対象として入試種別ごとに入学後の成績等の追跡調査資料を作成し、入学者選抜の改善に役立てている。（大妻女子）		◎ 多くの学部の3年次編入及び博士後期課程において、入学定員充足率が低い。（大妻女子）
	◎ 総合入試を実施することによって、文系、理系ごとの共通カリキュラムによる初年次教育の充実が図られ、入学後の学習成果に基づいて学部・学科を選択することを可能としている。（北海道）		◎ 大学院課程の一部の研究科等では、平均入学定員超過率が高い又は入学定員充足率が低い。一部の学科における専攻の編入学においては、平成23～27年度において、入学者がいない。（北海道）
	◎ 修士課程の教科教育専攻では秋季入学において、中国瀋陽市の瀋陽師範大学と中国天津市の天津外国語大学を会場に、外国人留学生特別選抜を実施している。（北海道教育）		
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（宇都宮）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（東京）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（電気通信）
			◎ 大学院課程の一つの研究科においては、入学定員超過率が高い。（静岡）
	◎ 機械工学科では女性技術者の育成のために、女子学生を対象とした推薦入試枠を設けている。（名古屋工業）		◎ 大学院課程の一部においては、入学定員超過率が高い。（名古屋工業）

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
			◎ 大学院課程の一つの研究科と専攻科においては、入学定員充足率が低い。（滋賀）
	◎ 博士課程では、平成25年度に文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」で、特にコミュニケーションにおける英語能力の評価にも重点を置いて選抜を行っている。（滋賀医科）		
			◎ 大学院課程の一部の研究科において、入学定員充足率が低い。（大阪）
	○ 地域に貢献する人材の発掘に資するために、入学者選抜において地域枠推薦入試等を実施しており、平成28年度からは地域貢献人材育成入試を導入して、さらに拡充することとしている。（島根）		
			◎ 学士課程の一部の編入学においては、入学定員充足率が低く、大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（山口）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（香川）
			◎ 大学院課程の一部の学府においては、入学定員超過率が高い。（九州工業）
	◎ 「入学者選抜の基本方針」において、各選抜方法の目的等が明確に定められているとともに、それに基づいて各学科・課程等が求める能力や資質等についての評価方法が具体的に示されており、受入方針の内容が実際の選抜方法に合致したものとなっている。（佐賀）		
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（熊本）
	◎ すべての学部において「高等学校等の段階で習得すべき知識・能力」を策定し、入学者受入方針に明記している。（大分）		◎ 大学院課程の一つの研究科において、入学定員充足率が低い。（大分）
	◎ 多様な学生・研究者が集まる世界に開かれた教育研究拠点であることを目的とした留学生受入の有効な方策がとられている。（奈良先端科学技術大学院）		
	○ アドミッション会議の部会において、入試区分ごとに入試データと入学後の成績追跡調査を基に検証を継続的にを行い、改善に役立てている。（横浜市立）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（横浜市立）
	○ 平成17年度以降、入学者の成績データベースを継続的に構築し、入学者選抜と入学後の成績の関連について調査・分析を行い、その結果を入学者選抜の方法の改善に活用している。（大阪市立）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（大阪市立）
			◎ 大学院課程においては、入学定員充足率が低い。（尾道市立）
	◎ 毎年度、入試区分別学業成績や卒業後の進路、修学状況等、多岐に渡るデータを組織的に集計し、部局ごとにデータを基にした入学者選抜の検証を行い、結果を改善につなげている。（北九州市立）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（北九州市立）
		◎ 学士課程において、平成28 年度入試より地域推薦入試を実施し、地域における看護職者の育成と確保を目指している。（宮崎県立看護）	◎ 大学院課程において、入学定員充足率が低い。（宮崎県立看護）
	◎ 聴覚障がい者入試等の多様な入試、社会福祉分野推薦、地方公共団体推薦等の推薦選抜を行うなど、入学者受入方針に沿って多様な学生の受入方法が採用されている。（日本社会事業）		◎ 大学院博士後期課程及び専門職学位課程においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（日本社会事業）
平成28年度	◎ AO入試の趣旨を一層実質化させるために、新型AO入試（新フンボルト入試）を導入している。（お茶の水女子）		
	◎ インターネット出願の導入により、海外からの出願が容易になるなど、利便性が向上している。（広島）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（広島）
	○ 在学生が出身高校を訪問し大学の魅力をPRする「秋田県立大学PR特命アンバサダー事業」や県外3か所での入試実施など、様々な手法を用いて入学者の確保に努めている。（秋田県立）	◎ 教育企画室を中心に、「統合学生データベース」を活用し、入学者選抜制度の改善を一層進めることが期待される。（秋田県立）	◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（秋田県立）
	◎ 都市教養学部生命科学コース、都市環境学部の地理環境コースでは、数か月間に渡り実施されるゼミナールや実験等の取組姿勢と面接により選抜するゼミナール入試を実施している。 ◎ 大学院課程において、東京都が設置する人材育成を目的とした基金を活用し、10月入学の留学生の受入を進め、留学生数を伸ばすことができている。（首都大学東京）		◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（首都大学東京）
			◎ 大学院博士後期課程では、入学定員充足率が低い。（富山県立）

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	◎ 学長・学長補佐等が石川県下の高等学校を訪問して入試制度について意見を聴取し、入試科目等の変更を行うなど、積極的に入学者選抜方法の改善を行っている。（石川県立）		◎ 大学院課程においては、博士前期課程、博士後期課程ともに入学定員充足率が低い。（石川県立）
			◎ 大学院課程の一部の研究科において、入学定員充足率が低い（静岡文化芸術）
			◎ 大学院課程の一部の研究科において、入学定員充足率が低い。（京都府立）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（大阪府立）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（兵庫県立）
			◎ 大学院課程の一部の研究科において、入学定員充足率が低い。（岡山県立）
			◎ 大学院課程において、入学定員充足率が低い。（福山市立）
	◎ 入学者選抜においては、面接担当者がキャリブレーションチェック用シートを用いることなどにより、ばらつきが調整され、面接の公正性が担保されている。（九州歯科）		
	◎ 小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。（福岡県立）		
	◎ 海外の高等学校関係者等へのヒアリングの結果に基づき、外国人留学生入試の選抜時期や科目について改善を図り、ベトナム、タイ、アメリカ等を含む多国籍の留学生が入学している。（福岡女子）		